

令和 8 年度 第 6 回理事会

日 時：令和 8 年 9 月 4 日（金）15:30～

場 所：森林総合研究所（つくば市）特別会議室

I. 報 告

1. 令和 9 年度予算概算要求の概要について [総合調整室]
2. 一般職員採用計画（経験者採用）について（非公表） [総務部]
3. 令和 8 年度第 1 回水源林造成業務リスク管理委員会概要（非公表）
[森林整備センター]
4. 災害救助法の適用を受けた区域を対象とした森林保険の対応について
[森林保険センター]

II. その他

1. 今後の主な会議・行事予定について
2. 主要行事
3. 森林研究・整備機構が広報普及した主なプレスリリース等について

令和9年度予算概算要求の概要について

- | | |
|--------------------------|------|
| (1) 令和9年度林野庁関係予算概算要求の概要 | 2～5 |
| (2) 森林総合研究所・林木育種センター関係予算 | 6～8 |
| (3) 森林整備センター関係予算 | 9～12 |

令和9年度 林野庁関係予算概算要求の概要

令和8年8月

区 分	令和8年度 当初予算額	令和9年度 概算要求額	対前年度比
	億円	億円	%
公 共 事 業 費	1,992	2,562	128.6
一般公共事業費	1,899	2,469	130.0
治 山 事 業 費	628	816	130.0
森林整備事業費	1,271	1,653	130.0
災害復旧等事業費	93	93	100.0
非 公 共 事 業 費	1,120	1,393	124.5
合 計	3,112	3,956	127.1

(注)1 上記のほか、農山漁村地域整備交付金の中で、林野庁関係事業を措置している。

2 金額は、関係ベース。

3 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

※「第1次国土強靱化実施中期計画」に係る経費、「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野における経費及び「食料安全保障強化政策大綱」を踏まえた食料安全保障の強化に向けた対応に係る経費については、事項要求として予算編成過程で検討。

令和9年度林野庁関係予算概算要求の重点事項

総額 3, 956億円
うち『「強く豊かな日本」投資枠』 370億円
(3, 112億円)
<1, 419億円>

『「強く豊かな日本」投資枠』も活用し、食料安全保障の強化等に向け、農林水産業の持続可能な成長を実現するための予算を要求

- ① 「食料安全保障強化政策大綱」を踏まえた食料安全保障の強化に向けた対応に係る経費、
② 「第1次国土強靱化実施中期計画」に係る経費、
③ 「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野における経費、
④ 飲食料品の消費税率の引下げに係る対応に係る経費
については、予算編成過程で検討。

(注1) 各事項の下段()内は、令和8年度当初予算額

(注2) 各事項の下段< >内は、令和7年度補正予算額

○ 日本成長戦略等を踏まえた潜在成長率の引上げ

(『「強く豊かな日本」投資枠』活用項目)

○ 農林水産業の構造転換による成長産業化及び食料安全保障の強化

百年つづく「森の国・木の街」の礎の確立

1 林業・木材産業分野における成長産業化に向けた取組の加速化

- ① 「森の国・木の街」創造連携イニシアティブ事業 83億円
- ・ 都道府県が策定する「森の国・木の街創造連携計画」(仮称)に基づき、川上から川下までの関係者の連携による生産性や付加価値の向上の取組(森林の集積・集約化、スマート林業技術の実装、路網整備、木材製品の付加価値向上、都市の木造化・木質化等)について、関連施策(1の③、2の①、②)の優遇措置により国産材サプライチェーンの強靱化を重点的に支援 (一)
<—>

② 林業適地における路網整備・再造林等の推進＜公共＞ ・木材の供給能力の強化に向け、林業適地における重点的な路網整備や確実な再造林等を推進	2 5 4 億円 (－) ＜－＞
③ スマート林業等新技術推進総合対策 ・デジタル情報の基盤整備、スマート林業技術の導入環境整備、フィジカルA I等の先端技術を活用したスマート林業機械・機器等や木質系新素材の開発・実証、地域一体での林業D Xの実現に向けた戦略拠点の構築等を支援	7 億円 (3 億円) ＜－＞
④ 花粉の少ない苗木の生産拡大 ・細胞増殖技術を活用した苗木大量増産技術の開発、官民一体となった苗木増産体制の強化、花粉の少ない苗木の広域流通等を支援	2 8 億円 (－) ＜1 6 億円＞

2 森林資源の循環利用の推進

① 森林循環利用・付加価値創出対策 ・森林の集積・集約化や森林境界の明確化、林業適地における路網の整備と再造林の省力・低コスト化、先進的な林業機械の導入、将来的に集積・集約化を担いうる者への技術習得支援等による多様な林業経営体の育成、広葉樹の利活用の促進、林野火災予防に資する森林情報マップの整備、森林病虫害対策の推進、木材加工流通施設の整備や木造公共建築物の整備等を支援 ・J A S 構造材やC L T等を活用した木造化、日本産木材製品の輸出促進、合法伐採木材の利用促進、合理的な木材価格の形成の促進、木育等を通じた消費者等の理解醸成の促進、特用林産物の競争力強化等を支援 ・山村地域の活性化や里山林の整備・活用に取り組む活動組織の確保・育成、「森業（もりぎょう）」を通じた森林価値創造等の取組を支援	1 8 6 億円 (9 2 億円) ＜－＞
② 森と木の人材育成・確保総合対策 ・「緑の雇用」事業による新規就業者への体系的な研修、林業大学校で学ぶ就業前の者への給付金給付、森林プランナーの育成、林業経営体の安全診断などの労働安全対策、木造建築物の設計者・施工者育成等の取組を支援	5 7 億円 (4 9 億円) ＜－＞
③ 森林の総合保全対策 ・効果的・効率的なシカ捕獲の取組や、森林病虫害による被害の抑制等の森林の総合的な保全対策を推進	2 2 億円 (7 億円) ＜9 億円＞

④ 花粉症解決に向けた総合対策

- ・スギ人工林の伐採・植替え等の加速化、スギ材需要の拡大、林業の生産性向上及び労働力の確保、花粉飛散量の予測・飛散防止、スギ花粉米の実用化に向けた安全性・有効性の検証等の取組を推進

73億円

(0.4億円)

<56億円>

3 国民の安全・安心を根底から支える多様で健全な森林づくりの推進

① 森林整備事業<公共>

- ・森林吸収源の機能強化や国土保全に資する、森林の集積・集約化に向けた間伐、主伐後の再造林、幹線となる林道の開設・改良、林野火災対策、クマ・シカ等対策、花粉発生源対策としてのスギ人工林の伐採・植替えや路網の整備等を推進

1,653億円

(1,271億円)

<523億円>

② 治山事業<公共>

- ・大規模災害の被害拡大防止に資する国直轄での集中的な復旧整備、予防治山対策による、生活環境基盤の確保に資する緊急輸送道路等の保全など、治山対策を効果的・効率的に推進

816億円

(628億円)

<340億円>

鳥獣被害防止対策等

- ・鳥獣被害の防止に向け、森林における効果的・効率的なシカ捕獲等の取組を推進

4億円

(1億円)

<1.8億円>

農山漁村地域整備交付金<公共>

- ・地方が地域の自主性と創意工夫を活かしつつ実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援

915億円の内数

(762億円の内数)

<—>

<対策のポイント>

森林・林業・木材産業に関する試験・研究、林木の育種や優良な原種苗木の生産・配布等を行うことにより、森林・林業・木材産業の好循環による「森の国・木の街」の実現及び諸課題の解決に積極的に貢献します。

<事業目標>

○ 森林・林業・木材産業に関する総合的な試験・研究及び林木育種事業の着実な推進

○ 国立研究開発法人森林研究・整備機構中長期目標の達成

<事業の内容>

<事業イメージ>

○（国研）森林研究・整備機構は、森林・林業・木材産業に関する総合的な試験・研究等を行うことにより、森林・林業・木材産業が抱える諸課題の解決に貢献し、森林の保続培養を図るとともに、林業に関する技術の向上に寄与し、もって林業の振興と森林の有する公益的機能の維持増進に資することを使命としています。

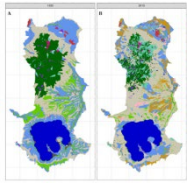
○森林・林業・木材産業分野における行政課題に対応した試験研究等を実施し、森林・林業・木材産業の好循環による「森の国・木の街」の実現に貢献します。

森林研究・整備機構の試験・研究課題（第6期中長期目標）と取組事例

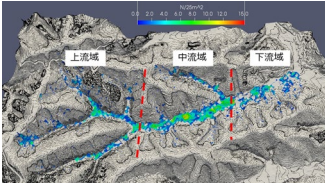
(A) 環境変動対策の高度化と森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発



森林吸収量算定の精度向上



温暖化による森林帯の変化



流木捕捉量予測ツールの開発

(B) 林業の持続的かつ健全な発展と木材資源の高度利用のための研究開発



林業機械の自動化



木の酒



構造用木質材料

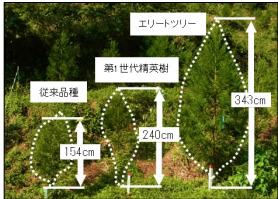


新規セルロース系素材開発
(耐候性塗料の開発)

(C) 多様で持続的な森林資源の造成・利用に貢献する林木育種



環境制御による育成期間短縮



成長等に優れた品種の開発



乾燥に強いスギ品種の開発

<事業の流れ>

国

交付（定額）

国立研究開発法人森林研究・整備機構

6

[お問い合わせ先] 林野庁研究指導課（03-6744-2312）

<対策のポイント>

森林・林業・木材産業に関する試験・研究、林木の育種や優良な原種苗木の生産・配布等に必要な施設の改善等を行うことにより、研究基盤の維持・強化を図ります。

<事業目標>

○ 森林・林業・木材産業に関する総合的な試験・研究及び林木育種事業の着実な推進

○ 国立研究開発法人森林研究・整備機構中長期目標の達成

<事業の内容>

森林・林業・木材産業が抱える諸課題の解決に貢献し、（国研）森林研究・整備機構の業務の適切かつ効率的な実施及び労働環境の改善のため、**業務実施上の必要性、老朽化の程度等を総合的に勘案し、研究基盤の維持・強化に必要な施設の整備**を行います。

○ 関西育種場育種実験棟整備

老朽化し、倒壊の恐れがある複数の建物を廃止し、新たな実験棟に集約するための工事を実施します。

○ 関西育種場高圧受変電設備更新

老朽化した受変電設備の更新を行います。

○ 九州支所研究本館等改修

老朽化した施設の改修等を行います。

○ 北海道支所研究本館エアコン新設

研究環境改善のため、エアコンの新設を行います。

○ 林木育種センター事務所棟屋上受変電設備更新

老朽化した受変電設備の更新のための設計を行います。

<事業イメージ>

【関西育種場育種実験棟整備】



倒壊の恐れがある建物

【関西育種場高圧受変電設備】



老朽化した受変電設備

【九州支所研究本館】



雨漏りしている天井

【北海道支所研究本館】



近年の夏季の高温に対応するため、エアコンを新設

【育種センター受変電設備】



老朽化した受変電設備

<事業の流れ>

国

定額

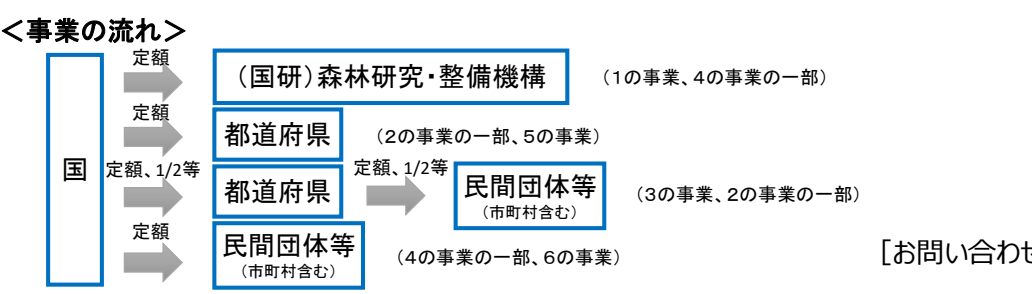
国立研究開発法人森林研究・整備機構

花粉の少ない森林への転換促進総合対策のうち
花粉の少ない苗木の生産拡大

うち、2,216,000千円
令和9年度予算概算要求額 2,766,550千円（前年度 - ）

- ＜対策のポイント＞
花粉の少ない苗木の生産拡大に向けて、原種苗木の増産、採種園やコンテナ苗生産施設の整備等官民を挙げた苗木増産体制の整備に加え、苗木生産に係る細胞増殖による苗木大量増産技術の開発や増産した苗木の広域流通等を支援します。
- ＜事業目標＞
○ スギ苗木の年間生産量に占める花粉の少ない苗木の割合の増加（約5割〔令和3年度〕→9割以上〔令和15年度まで〕）

- ＜事業の内容＞
1. 森林研究・整備機構による原種苗木増産 90,000千円
（国研）森林研究・整備機構による原種苗木の増産を支援します。
2. 都道府県による種穂増産
都道府県・認定特定増殖事業者による採種園・採穂園の造成・改良及び管理技術者の育成・確保を支援します。
3. 民間事業者による苗木増産
苗木生産事業者による苗木生産施設の整備及び労働力確保等の取組を支援します。
4. 細胞増殖による苗木大量増産技術の開発 2,126,000千円
細胞増殖技術を用いて、スギ等の未熟種子から苗木を大量増産する技術の開発等を支援します。
5. 増産苗木広域流通等の促進
需給見通しの作成や規格の共通化など、生産状況の地域差や需要変動リスクの軽減に向けた苗木の広域流通の促進の取組を支援します。
6. エリートツリー等の原種増産技術の開発等
ヒノキ原種苗木の効率的な生産技術及び採穂木管理技術の開発等を支援します。



〔お問い合わせ先〕（3、5の事業） 整備課（03-3502-8065）
（1、2、4、6の事業） 研究指導課（03-6744-2312）

森林整備事業＜公共＞

令和9年度予算概算要求額 165,273百万円（前年度 127,133百万円）

＜対策のポイント＞

森林吸収源の機能強化や国土強靱化、森林の集積・集約化の加速化に資する、**間伐、主伐後の再造林、林道の開設・改良等**の推進に加え、**林野火災対策、クマ類等対策**、花粉発生源対策としての**伐採・植替え、路網整備等**を推進します。

＜事業目標＞

- 人工造林面積 3.5万ha〔令和6年度〕→ 4.5万ha〔令和12年度〕
- スギ花粉の発生量の削減（令和2年度比 約2割削減〔令和15年度まで〕、5割削減〔令和35年度まで〕）

＜事業の内容＞

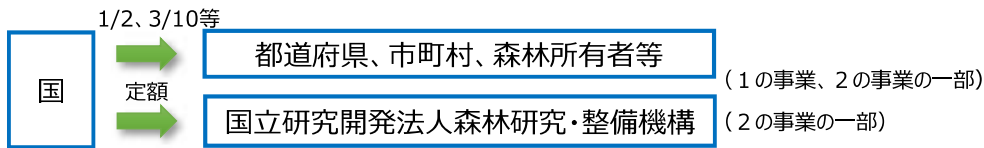
1. 間伐や再造林、路網整備等

- ① 省力化・低コスト化を進めつつ、**間伐や再造林等の適切な森林整備**を推進するとともに、基盤となる**林道の開設・改良等**を推進します。
- ② 森林資源の循環利用に向け、**林業適地における重点的な林道の整備や確実な再造林等**を推進します。
- ③ 花粉発生源対策として**伐採・植替え、路網整備等**を推進します。

2. 豪雨・台風等による被害を受けた森林の整備、林道の強靱化等

- ① 豪雨・台風等による被害を受けた森林や奥地水源林、重要インフラ施設周辺の森林等について、市町村等の**公的主体による復旧・整備**を推進するとともに、**防災上重要な幹線林道の整備**を推進します。
- ② 林野火災対策として、**防火機能の高い林道や延焼防止に資する防火林帯の整備**を推進するとともに、クマ類等の対策として、**人の生活圏への出没防止に向けた緩衝林帯の整備や、生息環境整備のための広葉樹林化等**を推進します。

＜事業の流れ＞



※ 国有林においては、直轄で実施

（注）上記要求額のほか、事項要求

＜事業イメージ＞

間伐や再造林、路網整備等

造林の省力化・低コスト化
や間伐等の推進

路網整備の推進に
より再造林等を後押し

森林資源の
循環利用

公益的機能の持続的発揮

林業適地における重点的な林道の整備や確実な再造林等を推進

花粉発生源対策として伐採・植替えの一貫作業や路網整備等を推進

豪雨・台風等による被害を受けた森林の整備、林道の強靱化等

豪雨・台風等による被害を受けた森林や奥地水源林等における復旧・整備や防災上重要な幹線林道の整備を推進

林野火災や人身被害の多発するクマ類への対策となる森林整備を推進

奥地水源林

幹線林道のり面保全

緩衝林帯の整備

【お問い合わせ先】 林野庁整備課 （03-6744-2303）

森林整備事業<公共>【復興対策】

【令和9年度予算概算要求額 2,604百万円（令和8年度当初予算額 3,624百万円）】

<対策のポイント>

福島第一原子力発電所事故により放射性物質の影響を受けた地域における森林・林業の再生に向け、帰還困難区域を始めとする地域において、**放射性物質を含む土砂の流出防止を図るための間伐や路網整備等を推進**します。

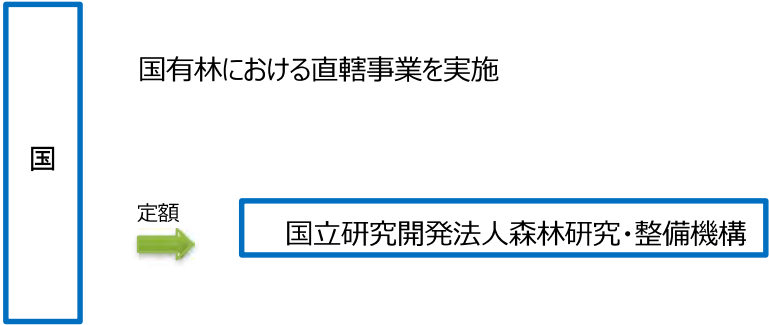
<政策目標>

土壌を保持する能力等が良好に保たれている森林の割合の増加

<事業の内容>

帰還困難区域や除染特別地域、汚染状況重点調査地域等において、**間伐等の森林整備や、これらの施業に必要な路網の整備等を推進**します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>



【お問い合わせ先】 林野庁整備課（03-6744-2303）
林野庁業務課（03-3502-8349）

幹線林道事業移行円滑化対策交付金（継続）

令和9年度予算概算要求額 52,020千円（前年度 52,020千円）

＜対策のポイント＞

平成20年4月1日に緑資源機構が解散し、緑資源幹線林道事業も廃止したことに伴い、業務を承継した国立研究開発法人森林研究・整備機構において既設幹線林道に係る賦課金等の徴収、借入金の償還を円滑に進める必要があります。

＜事業目標＞

既設幹線林道に係る賦課金等の円滑な徴収、借入金の償還

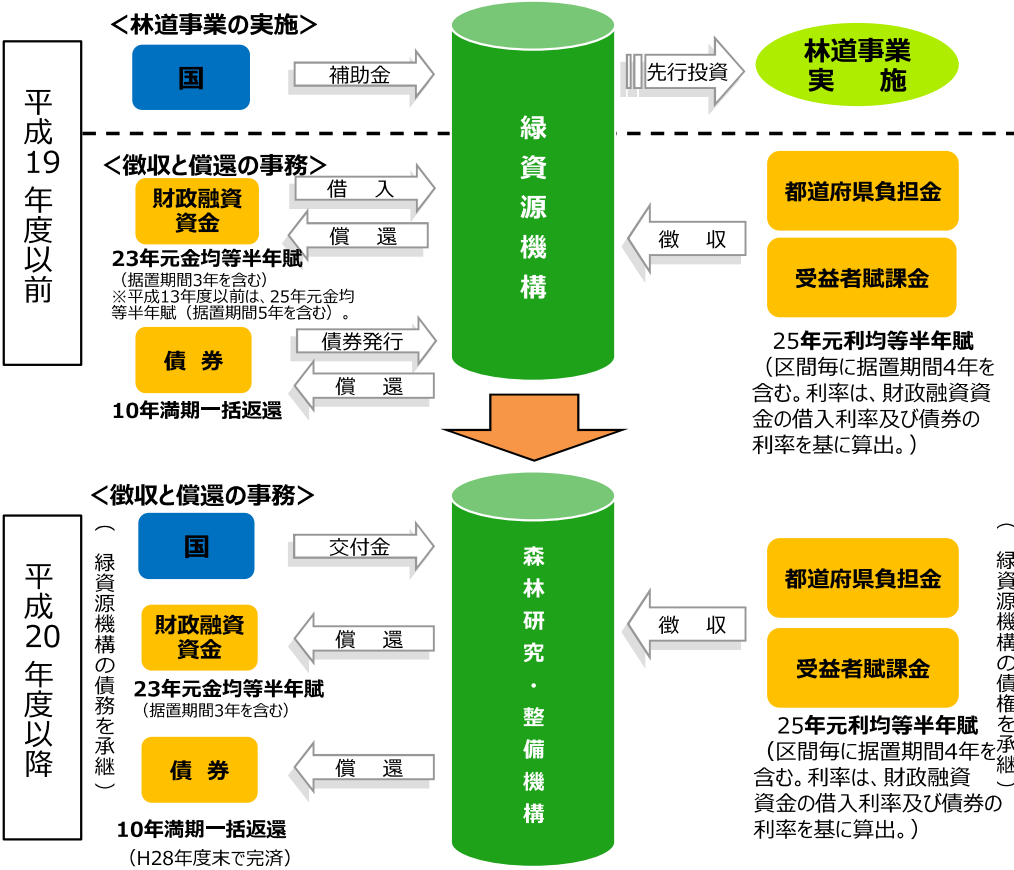
＜事業の内容＞

＜事業イメージ＞

○ 賦課金等の徴収のための事務費

国立研究開発法人森林研究・整備機構における既設幹線林道に係る賦課金・負担金の徴収に係る事務費を措置します。

＜事業の流れ＞



〔お問い合わせ先〕 林野庁整備課（03-3581-1032）

放射性物質対処型森林・林業再生総合対策事業（継続）【復興対策】

令和9年度予算概算要求額 733,607千円（前年度3,788,641千円）

<対策のポイント>

被災地の森林・林業の再生を図るため、森林内における放射性物質の実態把握、森林施業が放射性物質の動態に与える効果の検証やほだ木等原木林再生のための実証に加え、帰還困難区域等の国有林における森林整備の再開に必要な放射性物質対策等を実施します。

<事業目標>

森林・林業の再生を通じた被災地の復興

<事業の内容>

1. 森林内における放射性物質の実態把握106,192千円

○ 森林内の放射性物質の実態等を把握するため、樹冠部から土壌中まで階層ごとの放射性物質の分布状況等の調査・解析、樹木による放射性セシウムの吸収に関する土壌化学性の調査等を実施します。

2. 森林・林業再生に向けた実証等387,041千円

① 帰還困難区域等における実証

帰還困難区域等において、地域住民の帰還と林業の再生を円滑に進められるよう、森林施業が放射性物質の動態に与える効果の検証等を実施します。

② ほだ木等原木林再生のための実証

放射性物質の影響を受けている里山・広葉樹林の計画的な再生に向けた実証的な取組を実施します。

③ 情報の収集・整理と情報発信等

森林・林業の再生に向けた情報の収集・整理と情報発信、帰還困難区域等における安全な森林作業等のためのリスクコミュニケーション等を実施します。

3. 放射性物質対処型林業再生対策240,374千円

○ 帰還困難区域等の国有林における森林整備の再開に必要な放射性物質対策、住居周辺の里山における環境省・復興庁と連携した里山再生事業等を実施します。

<事業の流れ>

国

委託

民間団体等

(1、2の①、③、3の事業)

国

定額

都県

(2の①、②の事業)

都県

定額

市町村、民間団体等

(2の①、②の事業)

(国研) 森林研究・整備機構

(3の事業)

※ 1、2、3の一部は国有林による直轄事業

<事業イメージ>

1. 森林内における放射性物質の実態把握

枝 0.2%
樹皮 0.6%
材 0.7%
落葉層 1%
土壌 97%

2025年度（川内村スギ林）

樹木に付着した放射性セシウムは雨による洗脱や落葉などで土壌へ移動し、森林内の分布は15年間で大きく変化

土壌等の濃度測定

2. 森林・林業再生に向けた実証等

① 帰還困難区域等における実証

リターフォールによる放射性物質動態調査

③ 情報の収集・整理と情報発信等

小学生への出前講座

② ほだ木等原木林再生のための実証

伐採後のぼう芽更新

3. 放射性物質対処型林業再生対策

土壌移動抑制のための放射性物質対策

里山再生事業が完了した森林

[お問い合わせ先]

林野庁研究指導課 (03-6744-9530)

業務課 (03-3503-2038)

12

災害救助法の適用を受けた区域を対象とした森林保険の対応について

- ・ 令和8年8月13日から大雨に伴う災害
- ・ 令和8年7月17日から18日にかけての大雨に伴う災害
- ・ 令和8年8月27日から大雨に伴う災害

○ 上記災害により、災害救助法の適用を受けた区域を対象に、森林保険契約の継続手続きの猶予措置を定めた通知を森林保険業務の委託先である道府県森林組合連合会等に発出するとともに、森林保険センターホームページにも掲載。

○ 措置内容は、

- ①保険契約者が保険期間満了の30日前までに継続契約の申込みができなかった場合であっても、森林保険センターが猶予措置を決定した日から6月を経過する日の属する月の最終営業日までに申出があった場合は、同日まで継続契約の締結手続きを猶予する。
- ②猶予期間内に保険料を添えて継続契約の申込が行われた場合は、現契約と同一の契約条件により、現契約の満了日をもって継続による契約が成立したものとする。

災害救助法の適用による森林保険のお手続き猶予措置状況

対象災害等	対象区域 (防災情報のページヘルプ)	お手続き猶予措置 決定日 (括弧書きは最新の決定日)	お手続き猶予措置 期限	お手続き猶予措置 終了日
令和8年8月27日からの大雨に伴う災害	富山県の4市、 石川県の4市町、 福井県の6市町	2026/8/27 (2026/8/31)	2027/2/26	
令和8年7月17日から18日にかけての大雨に伴う災害	栃木県の1市	2026/8/20	2027/2/26	
令和8年8月13日からの大雨に伴う災害	千葉県の21市4町	2026/8/14	2027/2/26	
令和8年熊本地震に係る災害	熊本県の10市10町1村	2026/7/29	2027/1/29	
令和8年7月滋賀県甲賀市の土砂崩れに係る災害	滋賀県の1市	2026/7/14	2027/1/29	
令和8年6月24日からの大雨に伴う災害	福岡県の3市1町、 鹿児島県の1市	2026/6/25 (2026/6/29)	2026/12/28	
令和8年岩手県大槌町の林野火災に係る災害	岩手県の1町	2026/4/24	2026/10/30	
令和8年1月21日からの大雪に係る災害	青森県の7市10町4村、 秋田県の4市2町1村、 山形県の2市6町3村、 新潟県の4市	2026/1/30 (2026/2/6)	2026/7/31	2026/8/1
令和7年青森県東方沖を震源とする地震に伴う災害	青森県の3市7町2村 岩手県の5市4町3村	2025/12/9	2026/6/30	2026/7/1
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災に伴う災害	大分県の1市	2025/11/19	2026/5/29	2026/5/30
令和7年台風第22号に伴う災害	東京都の7町村	2025/10/9	2026/4/30	2026/5/1
令和7年9月12日からの大雨に伴う災害	三重県の1市	2025/9/16	2026/3/31	2026/4/1
令和7年台風第15号等に伴う災害	静岡県9市1町	2025/9/5 (2025/9/8)	2026/3/31	2026/4/1
令和7年9月2日からの大雨	秋田県の1市1町1村	2025/9/3 (2025/9/17)	2026/3/31	2026/4/1
令和7年台風第12号に伴う災害	鹿児島県の1市	2025/8/29	2026/2/27	2026/2/28
令和7年8月20日からの大雨	秋田県の1市	2025/8/21	2026/2/27	2026/2/28
令和7年8月6日から低気圧と前線による大雨	石川県の1市 山口県の1市 福岡県の1市 熊本県の6市5町 鹿児島県の4市	2025/8/8 (2025/9/8)	2026/2/27	2026/2/28
令和7年カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波	北海道の69市町村 青森県の9市町村 岩手県の12市町村 宮城県の15市町 福島県の3市町 静岡県の8市町 三重県の2市	2025/7/30	2026/1/30	2026/1/31
令和7年台風第8号に伴う災害	沖縄県の2村	2025/7/30	2026/1/30	2026/1/31
トカラ列島近海を震源とする地震	鹿児島県の1村	2025/7/10	2026/1/30	2026/1/31

今後の主な会議・行事予定について

日 付	研究	整備	保険	行 事 名	場 所 等
9月16日～ 17日	○			関西地区林業試験研究機関連絡協議会 第79回総会	KDDI 維新ホール（山口市） （主催：関西地区林業試験研究機関連絡協議会） （出席：関西支所、四国支所、関西育種場）
9月16日～ 18日	○			FORESTRISE 2026（第5回次世代森林産業展）出展	東京ビッグサイト 東2ホール（東京都江東区） （主催：産経新聞社）
9月28日～ 29日	○			令和8年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議	中央合同庁舎第4号館（東京都千代田区） （主催：林野庁、森林総合研究所）
9月30日	○			令和8年度森林総合研究所四国支所公開講演会「デジタル情報を使って森林を読み解く」	高知会館（高知市） （主催：四国支所）
9月30日	○	○		令和8年度特定母樹等普及促進会議現地検討会	茨城県林業技術センター（茨城県那珂市）、茨城森林管理署管内国有林（茨城県常陸大宮市） （主催：林木育種センター）
10月13日	○			木材関係研究調整会議	森林総合研究所（茨城県つくば市） （共催：林野庁、森林総合研究所）
10月13日～ 14日	○			令和8年度林業研究・技術開発推進九州ブロック会議 令和8年度九州地区特定母樹等普及促進会議	九州森林管理局（熊本市） （主催：林野庁、九州支所） （主催：九州育種場）
10月15日	○			森林講座「森林の攪乱と水循環」	多摩森林科学園 森の科学館（東京都八王子市） （主催：森林総合研究所）
10月19日	○			令和8年度林業研究・技術開発推進四国ブロック会議	高知会館（高知市） （主催：林野庁、四国支所）

10月20日～ 23日		○		会計検査院実地検査	福井水源林整備事務所（福井市） （実施：会計検査院）
10月21日	○			2026年度 森林総合研究所公開講演会 「森林と多様な生き物たちのつながりとその保全」	一橋大学一橋講堂（東京都千代田区） （主催：森林総合研究所）
10月25日	○	○		水都おおさか森林（もり）の市2026	桜ノ宮合同庁舎、毛馬桜之宮公園 （大阪市） （ブース出展：関西支所、関西育種場、近畿北陸整備局）
10月28日	○			令和8年度林業研究・技術開発推進北海道ブロック会議 令和8年度北海道地区特定母樹等普及促進会議	アスティ45（札幌市） （主催：林野庁、北海道支所） （主催：北海道育種場）
10月29日	○			令和8年度関西地区特定母樹等普及促進会議	近畿中国森林管理局（大阪市） （主催：関西育種場）
10月30日	○			令和8年度林業研究・技術開発推進近畿・中国ブロック会議	近畿中国森林管理局（大阪市） （主催：林野庁、関西支所）

主要行事（令和8年8月7日～令和8年9月3日）

月 日	行 事 内 容	出 席 者
8月7日(金)	【共】理事会(林木育種センター開催)	理事長、各理事、森林保険センター所長、監事
26日(水) ～28日(金)	【研】東北支所・東北育種場・奥羽増殖保存園視察	理事長
9月1日(火) ～2日(水)	【研】十日町試験地・長野増殖保存園視察	理事長
2日(火)	【保】森林保険センター統合リスク管理委員会	企画・総務・森林保険担当理事、森林保険センター所長
3日(木)	【育】全苗連生産者の集い(秋田県秋田市)	育種事業・森林バイオ担当理事

※【研】：森林総合研究所、【育】：林木育種センター、【整】：森林整備センター、【保】：森林保険センター、【共】：共通の行事の略

森林研究・整備機構が広報普及した主なプレスリリース等について

○ 前月以降公開済のプレスリリース

	広報タイトル	機関名	概要(ポイント)	URL
1	2026年度 森林総合研究所公開講演会 「森林と多様な生き物たちのつながりとその保全」 開催のお知らせ	森林総合研究所	・公開講演会を10月21日(水)に一橋大学一橋講堂(東京都千代田区)にて開催。 ・口頭講演のほか、最近の研究成果についてポスター発表。	https://www.ffpri.go.jp/press/2026/20260821/documents/20260821press.pdf
2	日本の林業を支えるヒノキ・スギ・コウヨウザンの染色体レベルのゲノム解読に成功！ ～巨大なゲノムから読み解く針葉樹の進化と、林業を加速させる品種改良に期待～	かずさDNA研究所 林木育種センター 九州大学	・スギ、ヒノキ、コウヨウザンについて、染色体レベルで高精度なゲノム解読に成功。 ・11本の染色体を比較し、3本の染色体でDNAの入れ替わりが生じており、進化の過程で3種が分かれてきた背景を理解する重要な手掛かりとなりうる。 ・「苗木の段階でDNA情報を手がかりにして」選ぶための技術開発に貢献すると期待。	https://www.ffpri.go.jp/ftbc/documents/press20260810.pdf
3	気候変動でスキー場はどのくらい減るのか？ ～気温4℃上昇で安定営業できるスキー場は全国で7か所に～	北海道大学 森林総合研究所	・気候変動予測データに基づき、日本全国349か所のスキー場の存続可能性を評価。 ・温暖化の進行により、スキー場の営業可能性が大きく低下することを予測。 ・高緯度・高標高へのスキー観光の集約を予測し、スキー機会をいかに維持するか問題提起。	https://www.ffpri.go.jp/press/2026/20260803/documents/20260803press.pdf
4	コナラ当年枝の放射性セシウム濃度と林齢の関係を解明 ～4～9年生の萌芽林の原木利用可否の予測が可能に～	森林総合研究所	・きのこ原木林となるコナラ樹幹部の放射性セシウム濃度を当年枝から推定する手法を高度化。 ・当年枝に含まれる放射性セシウム濃度は若い1～3年生の期間は林齢とともに変化するが、4～9年生になると林齢によらず安定。 ・4～9年生では当年枝を使った計測により、コナラのきのこ原木としての利用可否を高い精度で予測可能。	https://www.ffpri.go.jp/press/2026/20260806/documents/20260806press.pdf
5	火山活動によって形成された西之島での植物の侵入経路を解明	筑波大学 森林総合研究所	・「西之島」に生育しているイネ科の植物「オヒシバ」のゲノム情報を解析した結果、海鳥によって熱帯地方から沖縄、小笠原諸島などを經由して侵入した可能性が高い。 ・遺伝的多様性が極めて低く、たった1個または数個の種子から繁殖した可能性が高い。	https://www.ffpri.go.jp/press/2026/20260807-02/documents/20260807-02.pdf
6	赤トンボを育む森 ～アキアカネは中～低標高域の森林を利用～	森林総合研究所	・アキアカネの生息数は、水田(繁殖地)よりも森林(餌場や休息場)の面積と強く関係。 ・夏は平均気温25℃前後の森林、秋は低地の水田から周囲5km以内の森林が成虫の生息地として重要。 ・本種の森林における生態の解明や保全手法の高度化につながることを期待。	https://www.ffpri.go.jp/press/2026/20260807-01/documents/20260807-01press.pdf

7	耕作放棄は生物多様性にとって正か負か？ ー全国野外調査と全球メタ解析で保全上の価値を予測ー	国立環境研究所 森林総合研究所 北海道大学	・裸地や水辺を好む鳥類が多い地域では、耕作放棄によって鳥類種数が減少し、湿原や森林を好む鳥類が多い地域では、増加。 ・世界各地で報告されてきた相反する結果を統一的に説明。 ・地域の鳥類群集の特徴から、耕作放棄による生物多様性変化を予測可能。	https://www.ffpri.go.jp/press/2026/20260827/documents/20260827press.pdf
8	アライグマの生息密度が高いのはどこ？ 長期モニタリングデータを用いて生息密度の時空間変化と好適環境を推定	北海道立総合研究機構 北海道大学 森林総合研究所	・INLA-SPDEモデルという統計手法を使って、アライグマの北海道における生息密度の変遷と、生息密度が高くなる環境条件を明らかにした。 ・アライグマの分布の特徴が明らかになったことで、今後、生態系への影響や人のあつれき軽減にむけて、具体的な管理の戦略に役立てられることを期待。	https://www.ffpri.go.jp/press/2026/20260901/documents/20260901press.pdf

○ 最近のシンポジウム・イベント

	名称	機関名	開催場所・主催等	開催日
1	つくばちびっ子博士2026 もりの展示ルーム 夏休み公開	森林総合研究所	開催場所: 森林総合研究所(茨城県つくば市) 主催: 森林総合研究所	7月21日(火)～ 8月14日(金)
2	研究所へのトビラ2026 (就活相談)	森林総合研究所	開催場所: 森林総合研究所(茨城県つくば市) 主催: 森林総合研究所	7月21日(火)～ 8月31日(月)
3	令和8年度 夏休み親子 見学デー	森林総合研究所 林木育種センター	開催場所: 京都農林水産総合庁舎(京都市) 主催: 近畿農政局 ブース出展: 関西支所、関西育種場	8月5日(水)～ 6日(木)
4	2026年サイエンスパーク 「木や森を体験しよう！～ 樹種の違いを学ぶ木エク ラフト体験～」	森林総合研究所 林木育種センター 森林整備センター	開催場所: 北海道大学総合教育棟(札幌市) 共催: 北海道支所、北海道育種場、北海道水源林整備事務所	8月6日(木)
5	森林講座 クロストーク: 写真で巡る日本列島の多様な植生	森林総合研究所	開催場所: 多摩森林科学園 森の科学館(東京都八王子市) 主催: 森林総合研究所	8月21日(金)